

令和6年9月17日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

戦略的創造研究推進事業における 2024年度新規研究課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、戦略的創造研究推進事業（「CREST」、「さきがけ」および「ACT-X」）の2024年度研究提案募集における新規採択研究代表者・研究者および研究課題を決定しました。

本事業は、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出することを目的とした基礎研究を推進します。国（文部科学省）が戦略目標を設定し、その下に推進すべき研究領域と研究領域の責任者である研究総括（プログラムオフィサー）をJSTが定めます。研究提案は研究領域ごとに募集し、研究総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。「CREST」では選定された研究代表者が研究チームを編成して、「さきがけ」では研究者が個人で研究を推進します。「ACT-X」は、優れた若手研究者を見い出して育成するプログラムで、研究総括および領域アドバイザーの助言、指導の下、若手研究者が個人で研究を推進します。

2024年度研究提案募集として、「CREST」の9研究領域、「さきがけ」の15研究領域、および「ACT-X」の5研究領域において募集した結果、産学官各界の研究者から「CREST」は574件、「さきがけ」は1636件、「ACT-X」は629件の応募がありました（別紙）。

募集締め切り後、書類選考と面接選考（事前評価）を実施し、「CREST」は50件、「さきがけ」は175件、「ACT-X」は103件の研究課題とその研究代表者・研究者を採択しました。

詳細は下記ホームページを参照してください。

CREST：<https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/>

さきがけ：<https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/>

ACT-X：<https://www.jst.go.jp/kisoken/act-x/>

<添付資料>

別紙：2024年度応募数および採択数

参考1：研究総括・副研究総括・研究領域統括

参考2：選考の観点

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 戦略研究推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

前田 さち子（マエダ サチコ）

E-mail：rp-info@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

2024年度 応募数および採択数

<研究領域別>

CREST

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2024年度	予測・制御のための数理科学的基盤の創出	59	6	10.2%
	光と情報・通信・センシング・材料の融合フロンティア	61	5	8.2%
	材料創製および循環プロセスの革新的融合基盤技術の創出とその学理構築	68	6	8.8%
	革新的な計測・解析技術による生命力の解明	131	6	4.6%
2023年度	量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	33	6	18.2%
	海洋とCO ₂ の関係性解明から拓く海のポテンシャル	30	5	16.7%
	ナノ物質を用いた半導体デバイス構造の活用基盤技術	44	5	11.4%
	細胞操作	89	6	6.7%
2022年度	社会課題解決を志向した革新的計測・解析システムの創出	59	5	8.5%
合 計		574	50	8.7%

さきがけ

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2024年度	AI・ロボットによる研究開発プロセス革新のための基盤構築と実践活用	111	12	10.8%
	未来を予測し制御するための数理を活用した新しい科学の探索	119	14	11.8%
	光でつなぐ情報と物理の融合分野の開拓	61	10	16.4%
	材料の創製および循環に関する基礎学理の構築と基盤技術の開発	136	11	8.1%
	時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明	262	15	5.7%
	細胞操作	167	16	9.6%
2023年度	量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	50	10	20.0%
	海洋バイオスフィア・気候の相互作用解明と炭素循環操舵	54	10	18.5%
	新原理デバイス創成のためのナノマテリアル	104	10	9.6%
	社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出	141	13	9.2%
	計測・解析プロセス革新のための基盤の構築	111	10	9.0%
2022年度	物質と情報の量子協奏	52	13	25.0%
	文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創	64	11	17.2%
	地球環境と調和しうる物質変換の基盤科学の創成	90	10	11.1%
	加齢による生体変容の基盤的な理解	114	10	8.8%
合 計		1,636	175	10.7%

ACT-X

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2024年度	生命と情報	125	19	15.2%
	AI共生社会を拓くサイバーインフラストラクチャ	47	11	23.4%
2023年度	次世代AIを築く数理・情報科学の革新	128	30	23.4%
	トランススケールな理解で切り拓く革新的マテリアル	138	22	15.9%
2022年度	生命現象と機能性物質	191	21	11.0%
合 計		629	103	16.4%

研究総括・副研究総括・研究領域統括

CREST

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
予測・制御のための数理科学的基盤の創出	研究総括	小谷 元子	東北大学 材料科学高等研究所 主任研究者・教授／東北大学 理事・副学長
光と情報・通信・センシング・材料の融合フロンティア	研究総括	中野 義昭	東京大学 大学院工学系研究科 教授
材料創製および循環プロセスの革新的融合基盤技術の創出とその学理構築	研究総括	岡部 朋永	東北大学 大学院工学研究科 教授／東北大学 グリーン未来創造機構 グリーンクロスステック研究センター長
革新的な計測・解析技術による生命力の解明	研究総括	水島 昇	東京大学 大学院医学系研究科 教授
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	研究総括	井元 信之	東京大学 特命教授室 特任教授
海洋とCO ₂ の関係性解明から拓く海のポテンシャル	研究総括	伊藤 進一	東京大学 大気海洋研究所 教授
ナノ物質を用いた半導体デバイス構造の活用基盤技術	研究総括	齋藤 理一郎	東北大学 名誉教授
細胞操作	研究総括	宮脇 敏史	理化学研究所 脳神経科学研究センター／光量子工学研究センター チームリーダー
社会課題解決を志向した革新的計測・解析システムの創出	研究総括	鷲尾 隆	関西大学 商学部 教授

さきがけ

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
AI・ロボットによる研究開発プロセス革新のための基盤構築と実践活用	研究総括	竹内 一郎	名古屋大学 大学院工学研究科 教授／理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー
未来を予測し制御するための数理を活用した新しい科学の探索	研究総括	荒井 迅	東京工業大学 情報理工学 教授
光でつなぐ情報と物理の融合分野の開拓	研究総括	川西 哲也	早稲田大学 理工学術院 教授
材料の創製および循環に関する基礎学理の構築と基盤技術の開発	研究総括	北川 進	京都大学 高等研究院 特別教授
時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明	研究総括	上村 匡	京都大学 大学院生命科学研究所 教授
細胞操作	研究総括	宮脇 敏史	理化学研究所 脳神経科学研究センター／光量子工学研究センター チームリーダー
	副研究総括	山本 卓	広島大学 ゲノム編集イノベーションセンター 教授・センター長
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	研究総括	井元 信之	東京大学 特命教授室 特任教授
海洋バイオスフィア・気候の相互作用解明と炭素循環操舵	研究総括	神田 稔太	新潟大学 大学院教育支援機構 特任教授
新原理デバイス創成のためのナノマテリアル	研究総括	岩佐 義宏	理化学研究所 創発物性科学研究センター 副センター長
社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出	研究総括	葛岡 英明	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
計測・解析プロセス革新のための基盤の構築	研究総括	田中 功	京都大学 大学院工学研究科 教授
物質と情報の量子協奏	研究総括	小林 研介	東京大学 大学院理学系研究科 教授
文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創	研究総括	栗原 聡	慶應義塾大学 理工学部 教授
地球環境と調和する物質変換の基盤科学の創成	研究総括	山中 一郎	東京工業大学 物質理工学院 教授
加齢による生体変容の基盤的な理解	研究領域統括	望月 直樹	国立循環器病研究センター 研究所 研究所長
	研究総括	三浦 正幸	東京大学 大学院薬学系研究科 教授

ACT-X

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
生命と情報	研究総括	杉田 有治	理化学研究所 開拓研究本部 主任研究員
AI共生社会を拓くサイバーインフラストラクチャ	研究総括	下條 真司	青森大学 ソフトウェア情報学部 教授
次世代AIを築く数理・情報科学の革新	研究総括	原 隆浩	大阪大学 大学院情報科学研究科 研究科長・教授
トランススケールな理解で切り拓く革新的マテリアル	研究総括	竹内 正之	物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研究センター センター長
生命現象と機能性物質	研究総括	豊島 陽子	東京大学 名誉教授

(令和6年9月17日現在)

選考の観点

<CREST>

(1) CRESTの各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。

- a. 戦略目標の達成に貢献し、研究領域の趣旨に合致しているものであること。
- b. 独創的であり国際的に高く評価される基礎研究であって、今後の科学技術・イノベーションに大きく寄与する卓越した成果が期待できること。
- c. 研究構想について、以下の条件をいずれも満たしていること。
 - ・ 研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。
 - ・ 研究提案書において、研究構想の背景（研究の必要性・重要性）および研究構想・計画それぞれが明確に記述されていること。
 - ・ 研究提案者の研究構想を実現する上で必要十分な研究費計画であること。
- d. 研究実施体制について、以下の条件をいずれも満たしていること。
 - ・ 研究提案者は、研究遂行のための研究実績を有していること。
 - ・ 最適な研究実施体制であること。研究提案者がチーム全体を強力に統率して責任を負うとともに、主たる共同研究者を置く場合は研究提案者の研究構想実現のために必要不可欠であって、研究目的の達成に向けて大きく貢献できる十分な連携体制が構築されること。
 - ・ 研究提案者および主たる共同研究者が所属する研究機関は、当該研究分野に関する研究開発力などの技術基盤を有していること。

(2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

(3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。

<さきがけ>

(1) さきがけの各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。

- a. 戦略目標の達成に貢献し、研究領域の趣旨に合致しているものであること。
- b. 独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる基礎研究であって、科学技術・イノベーションの源泉となる先駆的な成果が期待できること。
- c. 研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該さきがけ研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。
- d. 以下の条件をいずれも満たしていること。
 - ・ 研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。
 - ・ 研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。
 - ・ 個人型研究として適切な実施規模であること。

(2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

(3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。

<ACT-X>

(1) ACT-Xの各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。

- a. 戦略目標の達成に貢献し、研究領域の趣旨に合致しているものであること。
- b. 独創的・挑戦的なアイデアに基づく提案であり、国際的に高水準の発展が将来的に見込まれる基礎研究であって、科学技術・イノベーションの創出につながる新しい価値の創造が期待できること。
- c. 研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該ACT-X研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。
- d. 以下の条件をいずれも満たしていること。
 - ・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。
 - ・個人型研究として適切な実施規模であること。

(2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。

(3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうかも、選考の要素としました。

以上